

【サテライトシンポジウム 1】

「地域における長期療養患者支援の課題 ～福祉現場からの提言～」

■座 長：山本 博之（東京福祉大学）

■コーディネーター： 小西 加保留（関西学院大学）

■基調講演：介護の必要な HIV 感染者を地域で支えるために
小西 加保留（関西学院大学）

■演 題：

1. 臨床医の立場から
内海 真（高山厚生病院）
 2. 施設職員の立場から
馬淵 規嘉（サンビレッジ新生苑）
 3. ケアマネジャーの立場から
梨木 京子（医療法人社団三記東鳳ハイネス）
 4. 医療ソーシャルワーカーの立場から
葛田 衣重（千葉大学附属病院）
- フロアーとの意見交換

治療薬の進歩により、HIV 感染症は慢性疾患といわれるようになり、早期に感染に気づき、適切な医療を受けることによって、多様な社会生活を継続することが可能な病気となった。市民の間にも一般的な知識は比較的普及し、1998 年には、“免疫機能障害”として身体障害者認定の対象となり、様々な社会的サービス利用への道も開かれた。

しかしながら、他の生活習慣病などと比して、一般に HIV 感染症が語られることは少なく、性感染症ゆへの偏見や、まだまだ身近でない怖い病気というイメージが払拭されているとは言い難い。またサービスを利用することは、病名を開示することに繋がり、様々な生活場面で制約感が伴うことも予想される。

こうした状況の中で、予防対策は十分に効果を上げるまでには至らず、感染者・患者数は広い年齢層に亘って増加傾向にある。また、医療は進歩したものの、医療機関へのアクセスの遅れによる治療困難、薬による副作用、合併症、加齢現象などにより、障害や要介護状態を伴う長期療養者が漸増している。現状ではこのような長期療養者を安定して支える場の確保が困難で、福祉施設サービスや療養型病床群の受入れ拒否、免疫能の安定した感染者の複数病院での社会的入院の繰り返し、在宅医療体制の不備などが問題となっている。

本シンポジウムでは、特に長期に介護、医療を必要とする患者を地域で継続して支えるためには、誰の、どのような考えや姿勢、どのような内容の支援が必要とされるのかについて、療養型病院医師、社会福祉施設職員、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカーからの実践報告を中心に、社会福祉現場からの声を届けたい。その上で、市民の方を含んだ多様なディスカッションを展開し、今後の展望

を共有したいと思う。

※入場無料、事前申込は必要ありません。

主 催：財団法人エイズ予防財団（(厚生労働科学研究費エイズ対策研究推進事業 研究成果発表会)
厚生労働省エイズ対策研究事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班

【サテライトシンポジウム 2】

「ゲイ男性の生育歴と HIV 予防

- 5,731 人のインターネット調査結果をひもといて -

研究者・スクールカウンセラー・HIV カウンセラーの立場から」

■ 進行：市川 誠一 (名古屋市立大学看護学部)

■ 演者：日高 庸晴 (慶應義塾大学看護医療学部 / エイズ予防財団リサーチレジデント / 京都大学大学院医学研究科 客員研究員)

向笠 章子 (聖マリア病院 臨床心理士 / 福岡県スクールカウンセラー)

森田 眞子 (神奈川県保健福祉部健康増進課 / HIV 保健センター HIV カウンセラー)

厚生労働省エイズ動向委員会によれば、わが国では依然として HIV/AIDS の報告数は増加傾向にあり、そのほとんどは男性同性間の性的接触による感染であると報告されています。2006 年 8 月に発表された新規感染者数は過去最高であり、現在最も HIV 予防対策に力を入れなければならない集団がゲイ・バイセクシュアル男性です。

では、どのような方法でゲイ・バイセクシュアル男性を対象にしたエイズ対策を実施したらいいのでしょうか。異性愛を中心とする社会の中でゲイ・バイセクシュアル男性が日常的に蓄積しているストレスや心理的葛藤が HIV 感染予防行動の阻害要因であるというわが国の研究報告があります。また、研究参加者からは思春期に直面する様々な発達段階における課題に対して教育現場からの支援が皆無に等しかったことが示され、彼らがストレスや心理的葛藤を抱えはじめる背景には、わが国の教育現場での同性愛に関する正しい知識や情報提供が十分とはいえないことが関連していると思われる。一方で、教育現場にはこうした課題に取り組んでいる養護教諭をはじめとする教員の方が多くおられると思いますが、そのような取り組みや経験を共有することも少ないのが現状と思われます。

シンポジウムではまず、ゲイ男性の生育歴や HIV 予防行動を阻害する要因について調査結果を報告します。そして、スクールカウンセラーや HIV カウンセラーの「現場からの報告」をお伝えするとともに、参加者のみなさんと意見交換をする機会にしたいと考えています。

※入場無料、事前申込は必要ありません。

主 催：財団法人エイズ予防財団 (厚生労働科学研究費エイズ対策研究推進事業 研究成果発表会)
厚生労働省エイズ対策研究事業「男性同性間の HIV 感染対策とその評価に関する研究」班